

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

予期せぬ急変を予防するための手術リスクアセスメントの多職種情報共有システム構築
—整形外科手術を受ける高齢患者に焦点を当てて—

2. 研究責任者(当院)

所属：聖隷佐倉市民病院 医療安全管理室 看護部

氏名：加藤 和美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし

代表名：なし

3. 分担研究者

所属：なし

氏名：なし

4. 研究対象者

2024 年 5 月 1 日～2024 年 11 月 30 日の間に、聖隷佐倉市民病院において、手術に関わる多職種（医師 4 名、看護師 6 名、薬剤師 1 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名、臨床工学士 1 名等）

5. 研究の必要性

当院では、高齢者の整形外科手術が多く、術後に現病と違う疾患が発症することで治療方針が変更したなどの「予期せぬ急変」が起きていることがある。高齢患者は、併存疾患・潜在疾患を抱えている場合が多くあるため、手術前から患者情報を収集して、合併症や併存疾患の悪化・潜在疾患を予防または最小限することが重要である。

先行研究では、周術期外来（センター）や手術認定看護師が手術前から患者の情報を積極的に取り、ガイドラインに沿った身体評価と術式に合わせた評価を自施設の独自の術前リスク情報を患者に関わる職種（医師、看護師、管理栄養士、理学療法士）と部門間に情報を共有していた。手術前から情報共有を行うことで、患者のリスク因子を発見し追加検査や専門診療が介入でき、患者が予定通りに退院をすることができると報告されている。

当院は、周術期外来（センター）の設立はなく、患者の手術前情報収集は、多職種と部門が各々の役割を持って情報収集を行っているが、多職種と部門間が手術リスクアセスメント情報を共有する統一した決まりはない。手術認定看護師は在籍していないため、術前訪問は手術室看護師が業務の合間で行っている。

手術に関わる多職種と部門間の看護師が手術リスクアセスメント情報を電子カルテで共有するシステムを構築することで、患者の併存疾患、潜在疾患の発症・悪化を予防または最小限にするためのリスク因子を発見し、手術前に対応をすることで、患者の予期せぬ急変を予防することができる。本プロジェクトの成果は、今後、病院全体の手術を受ける患者のリスクアセスメント情報の共有を展開する上で貴重な実績になると考える。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は、多職種（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学士等）の手術前リスクアセスメントについての視点や知識を知り、患者の全体像を捉え、リスクアセスメント能力が高まることで役割を発揮することができる。

侵襲（軽微を除く）を伴う研究ではなく、人体への影響はないと考える。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151 内線 2331

担当者氏名：加藤和美

対応時間：平日 8 時 30 分～17 時

共同研究において専用窓口がある場合

なし